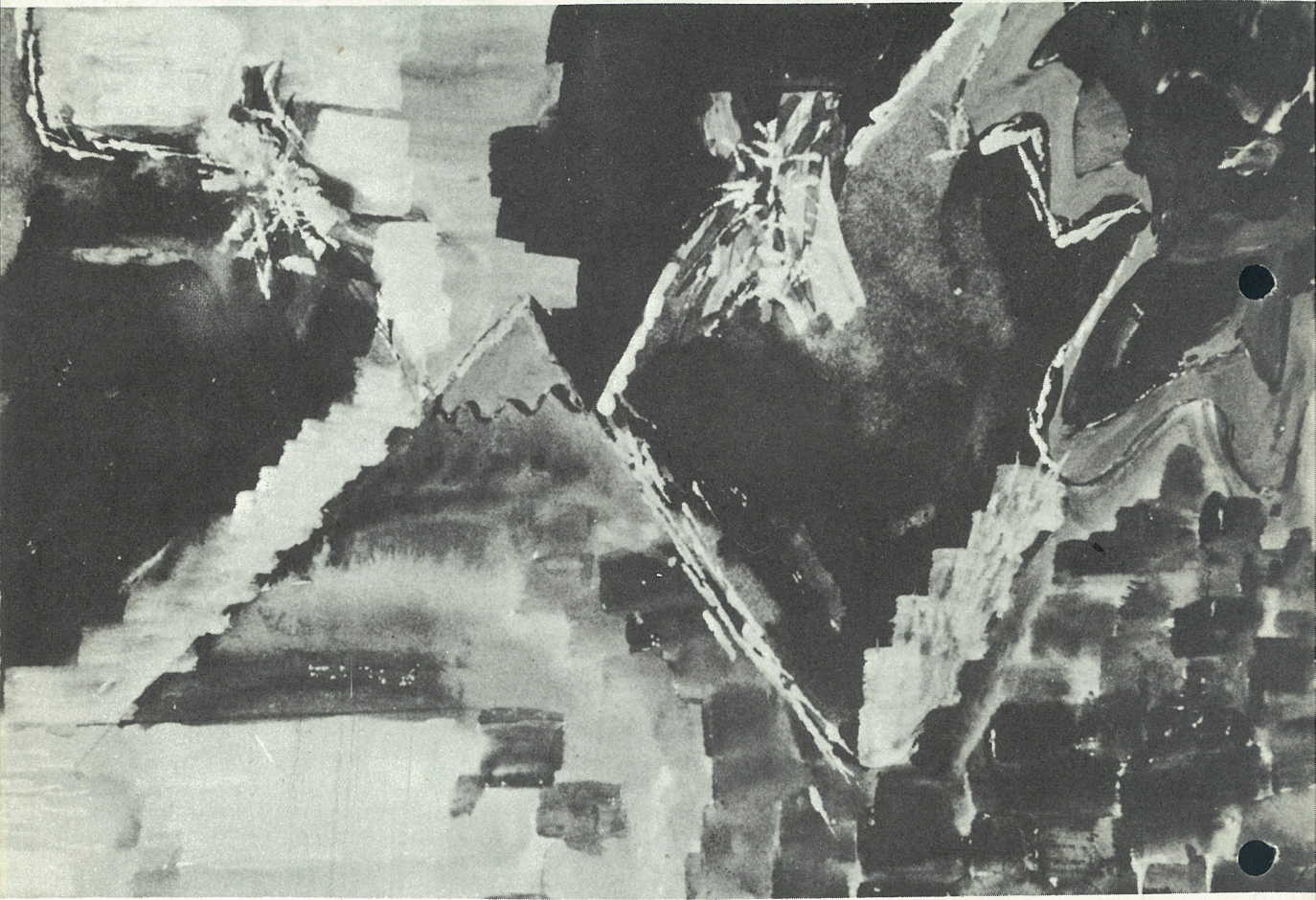


広報あしや

'74
No.17

小学校3年生～中学校3年生用

每学期発行



「音楽からのイメージ」山手中学校2年 上村有弘さん 作品

■わたしたちのくらしと市役所のしごと

■プレイマップ遺跡・史跡めぐりをしよう！

■民話で知るあしや「金兵衛車・やけ車」

■おかあさんの書いた童話「ライオンのかんづめ」

みんなのくらしと

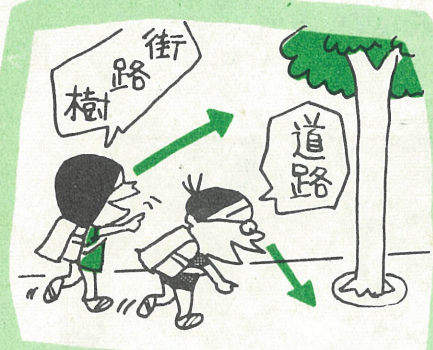
市役所のしごと ①

1日をふりがえて

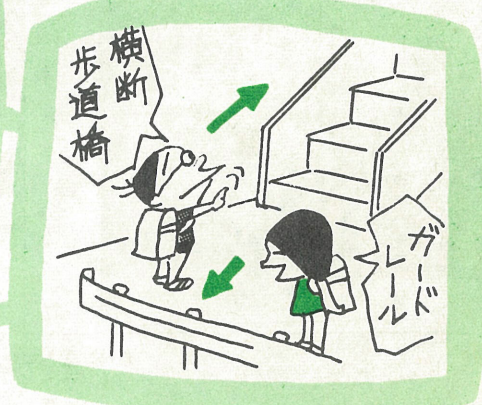
みんなが朝起きてから、夜ねむるまでにあつたこと、経験したことをひとつひとつ思い出しながら見ていきましょう。



▲きれいな水をみんなに送りつづけるのは水道部のしごと、使ったあとの水は下水道部が処理をします。

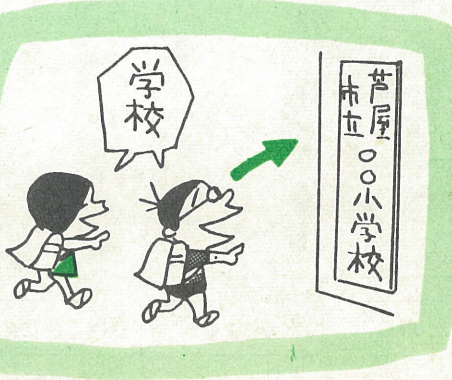


▼道路、歩道、防護さくなど、みんなの安全を守るための施設は道路課のしごとです。

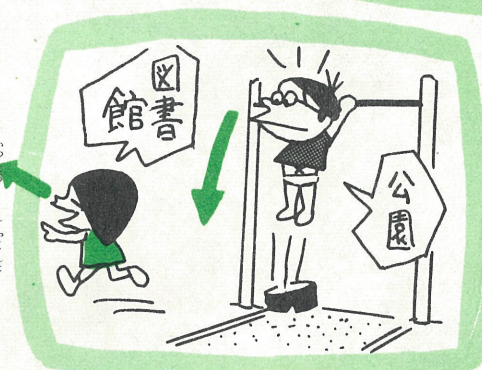


▲ゴミをあつめ、まちをきれいにするのは環境衛生課のしごとです。

▲学校のプール・体育館などを建てるのは建築課のしごとです。

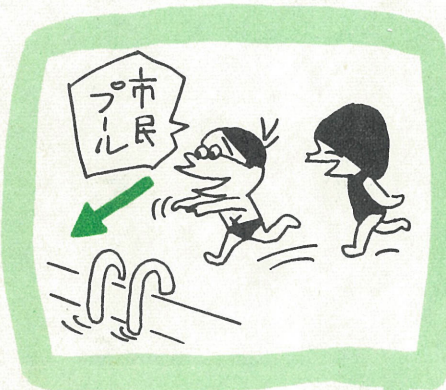


みなさんの一生と市役所のしごととの間には、きつてもきれいなつながりがあるのです。たとえばみなさんが生まれる前、そう、まだおかあさんのお腹の中にうずくまっていたころ、おかあさんが市役所に母子手帳をとりこられてから始まるみなさんと市のおつきあいは、ずつとずつと将来、み

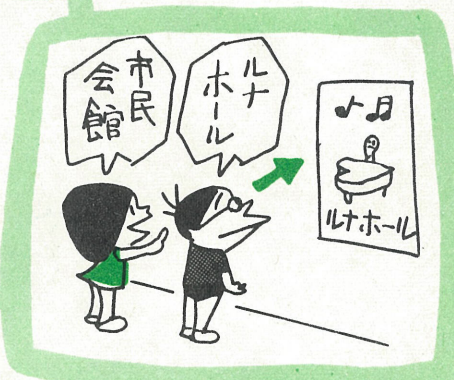


▲帰りを明るくしてあげている公益灯をとりつかけたり、管理したりするのは道路課のしごとです。

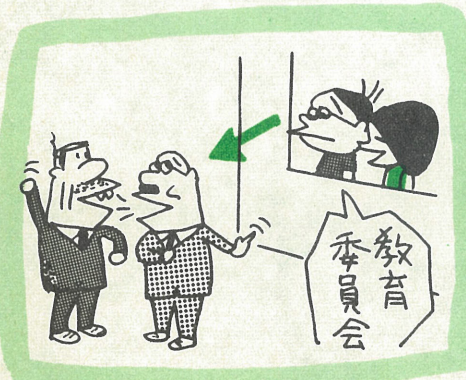
▲みんなが利用している公園や図書館、ルナ・ホール、体育館などは、みんな市のたてものです。



▼夏には市民プールへいきますね。これは体育青少年課のしごとです。



▼学校の施設を管理したり、みんなの勉強のことをいろいろ考えたりするのは教育委員会のしごとです。

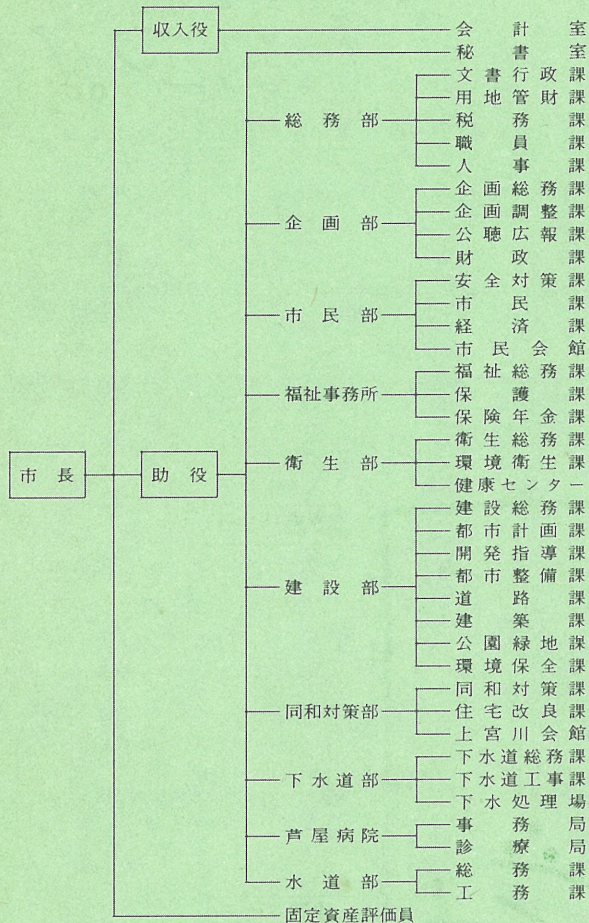


▲おなじみの予防注射、また結核検診、心臓の検診は衛生部および健康センターのしごとです。

●このほかにもいろいろなつながりがあります。みんなも一度、考えてみてください。

みんなのくらしと市役所のしごと ③

市役所の組織図



市議会——事務局

- 教育委員会
- 秘書課
 - 管理課
 - 指導室
 - 社会教育室
 - 同和教育室
 - 体育青少年課
 - 青少年センター
 - 少年補導所
 - 公民館
 - 図書館
 - 教育研究所
 - 高等学校
 - 中学校
 - 小学校
 - 幼稚園

- 選挙管理委員会——事務局
- 監査委員——事務局
 - 公平委員会——事務局
 - 農業委員会——事務局
 - 固定資産評価審査委員会

- 市長
- 消防本部
 - 総務課
 - 警防課
 - 消防署
 - 消防団
 - 山手分団・精道分団
 - 打出分団・岩園分団

みんなでしるべたこと

着工	昭和46年10月
完成予定	昭和53年3月
処理量 (1日平均)	51,175m ³ (完成のとき) =11万5千人分
敷地面積	40,300m ²
建設費	約70億円

皆さん、よごれた水は24時間いつでも流れており、処理場のおじさんたち(44人)が交替でしごとをつづけているのはたいへんなことだと思います。

どんなふうにかきれいになるのかな

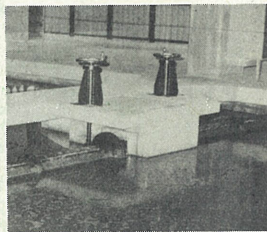
汚水や工場の廃液やよごれたきた海や川は、いくら下水処理場ができたからといって、今すぐきれいにならないかもしれません。でも、きたないままの水を流さなくなったら、少しずつ海もきれいになるのは確かです。



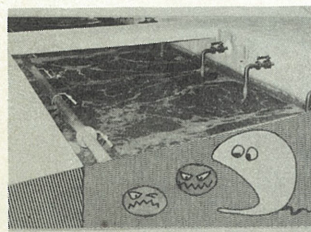
最終沈でん池

汚水処理のしかた

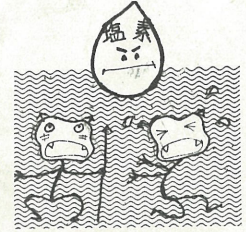
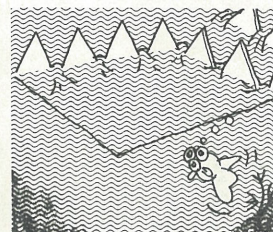
最初沈でん池
うかんでいるゴミやドロをのぞく



ばっ気そう
空気を送りこまれげんきになった原生動物がドロを食べるところ

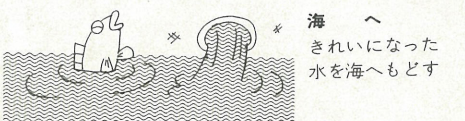


最終沈でん池
原生動物などがドロをいっしょに沈み、金魚も泳げるようになる



塩素混和池
バイ菌を塩素で殺す

池からでてきたドロ → 薬品をいれてかためる → 水をぬく → やいて灰にする



海へ
きれいになった水を海へもどす

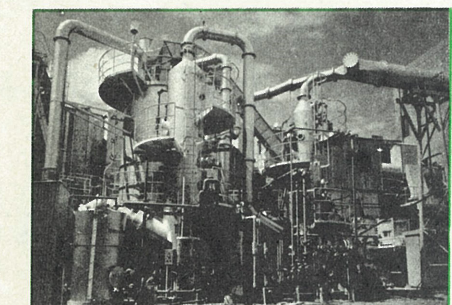
下水処理場...
この処理場の上屋に緑地公園もできます。

市では、汚水をきれいな水にする施設「下水処理場」を、昭和46年から埋立地に建設を始め、49年1月から運転を開始しました。この7月からは、コイや金魚も住める水にする「高級処理」をしています。

どうしても休めないしごと

よごれた水からとったドロは、集めて水をぬき、最後には焼いて灰にしています。この灰は埋立地にできる公園の造成に使われています。将来は肥料として使うなど有効な利用方法がいろいろ考えられています。

海や川はきれいになるのかな

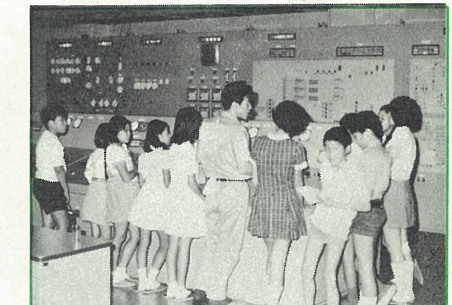


焼却炉

よごれている海
マイクロバスに乗った十一人のお友だちは、いま埋立地に建設中の下水処理場にむかいました。「むかし芦屋浜で海水浴ができたなんてウソみたいだ」「いまの海では、人間どころか、お魚だって死んでしまいうね」——海を見てみんながそう思いました。今は、海は工場や家庭から流れてくる汚水でたいへんよごれています。このようなよごれた水をきれいにし海に流すしごとは、日本ではたいへん遅れており、大きな問題になっています。

よごれた水からとったドロは、集めて水をぬき、最後には焼いて灰にしています。この灰は埋立地にできる公園の造成に使われています。将来は肥料として使うなど有効な利用方法がいろいろ考えられています。

ごろはどろするの



中央管理室

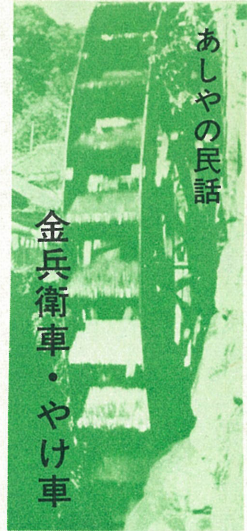


下水処理場

ミニミニルポ

あしやの民話

昭和の初めころまであった水車



金兵衛車・やけ車

むかし、芦屋川の上流にはたくさん水車小屋のある水車谷とよばれるところがありました。この水車谷には、くる日もくる日も灘の酒米をつく水車の音がゴトンゴトンと聞こえておりました。この静かな部落にも、年に一度だけ各地から元気な若者たちが集まってくる時期がありました。それは京都の御所へさしあげるお酒の酒米を、あちこちの村から選ばれた若者がつくならわしになっていたからです。

ある日、芦屋の里、城山のふもとの「金兵衛車」という水車小屋に、丹波の国からその酒米をつくためにひとりの若者がやってきました。主人はさつそく、この車の格式のあること、酒米の尊いことなどこんこんと聞かせ、水車小屋へ入る前には芦屋川の水で身をきよめること、いちど小屋に入るとつきおわるまでは、決して外へでてはならぬこと、また米をついている間はだれともむだ話をしてはいけないことなど、こまごまと注意を与えました。若者は主人の注意をまもり、ただもくもくと働き

ました。しかし、そうはしていても頭の中では丹波の国に残してきたいいなすけのことではいっぱいでした。

ちようどそのころ、丹波の国に残された娘も、悲しみとやるせなさに苦しい日々を送っていました。娘の親たちは、娘の心を察し気持をかえさせようと、他家へ早く嫁入りさせようと考えていました。それを知った娘は、悲しきあまりついに家出し、野をこえ山をこえ夢中で芦屋の里にたどりつき、すぐに金兵衛車をたずね、その戸をなんどもなんどもたたきました。しかし、主人はけつしてとりあつてくれませんでした。その後、なんどもなんどもたずねてはいきましたけれど、ついに若者にあうことはできなかつたのです。

娘の心はしだいに乱れはじめ、ついには半狂乱となつて毎日泣きくりました。それから十日ほどもたつたころだつたでしょうか、娘が破れた衣を身にまとい、髪をふり乱し、ハダシのまま山や谷を駆けまわっている姿を、里人は見ました。顔は青ざま目ばかり大きくぶきみにかがやき、恐ろしい形相でありました。

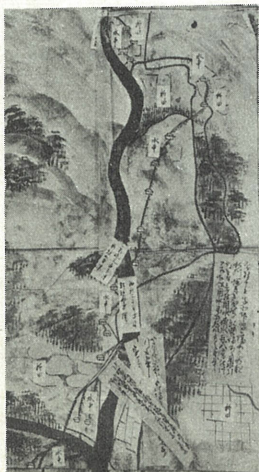
細い雨がしとしと降つて、武庫の山やまが濃い霧につつまれたある夜のこと、娘は、どこで手折つてきたのか二枝のサカキを手にとって、わけのわからぬ呪文となえながら水車のまわりを駆けまわつておりました。

やがて、娘のからだからふしぎな青白い光が出はじめ、そのあやしい火はしだいに大きくなってひとかたまりの怪火となり、ついにはフワリフワリと空中に舞いあがりました。

その夜も更けて、里人は金兵衛車からふしぎな火がでているのを見たのです。その火はやがて火の車となつて、くるりくるりとまわりながら、高い夜空へとのぼつていくのでした。里人がかけつけたときには、すでに金兵衛車のあとひとつなく、ただサカキの枝が落ちていただけでした。その後、だれも金兵衛車の主人やあの若者を見た人はいません。

それでもこのときから、里人の間ではこのふしぎな水車のことを「金兵衛車、やけ車」と呼ぶようになり、子どもたちまでもが夕焼け空を見ると、歌うようになったといふことです。

金兵衛車
やけ車



安政四年(一八五七)芦屋川水車絵図

ライオンのかんづめ

文・鈴木愛子

「こんやのデザートはなあに」
たけちゃんがたずねると、お台所でおかあさんが

「そうね、おじさんのアメリカかみやけのかんづめをあげましょうか。たけちゃんが好きなのを冷蔵庫から出していらっしやい」
と、おっしゃいました。

「ぼく、これがいいな。これ、なにが入っているかあけてみてよ」
たけちゃんが持ってきたのは、たけちゃん大好きな、パイかんでもさくらんぼでもなくて、黄色のラベルのすみっこに、小さくライオンの絵が印刷してある、いままで見えたことのないかんづめでした。たけちゃん

「ね、これなんだろう、ライオン印だよ」と、大声をあげました。
新聞を読んでいたおとうさんも、テレビをみていたおばあちゃんも、めがねをはずしながらテーブルのそばに集まりました。
「パイナップルでしょう、ラベルが黄色いもの」
おかあさんがおっしゃいました。

「いやいや、それはゆでたまごだよ。」

まあ、くすくす入っているんだよ。黄味の黄色さ、その黄色いレッテルは」と、お

ばあちゃんは自信たっぷりです。すると、いままでもだまっていたおとうさんが

「しかし、あの二郎のことだから、なにかアメリカのめずらしいかんづめを買ってきたのかもしれないぞ」
と、小さなころからいたずら好きのおじさんを思い出したようにおっしゃいました。

「それじゃあ、あけてみましょう。だれが当てるでしょうね」
おかあさんはかんきりを、ギシギシまわしました。

「あらっ、なにかしら」
中をのぞいたおかあさんは、変な顔をして、かんをさかさにふりました。すると、まあ、前足の上にあごをのせて眠った小さなライオンがころがり出しました。

「わあ、やっぱりライオンだ」
たけちゃんとはびあがりました。その間にライオンは、むつくりむつくり大きくなり、前足をのばして大きなあくびをする

「ウォー」
と、一人前にほえました。これはまちがいにライオンの子です。

「ライオン、ライオンうれしいな。ね、これ、おうちでかってもいいでしょう」
たけちゃんもライオンの首に抱きつき、ほおずりしながら、もういっしょにそこら中をころげまわっています。おとうさん

も、おかあさんも、おばあちゃんもそれぞれではありません。大さわざです。
「はやく警察へ知らせなくっちゃ」
「一〇番だったかしら、それとも一一九番かしら」
おかあさんは、やっと警察へ電話しまし

た。
「なに？ ライオンの子？ このいそがしいときにこまるね。こんやは留置場はドロボウでいっぱいです」
おまわりさんは、そういうとガチャンと電話をきりました。すると、おばあちゃんが

「やはり、これは保健所ですよ。ワンワンセンターに入れてもらいましょう」
「ライオンの子？ きょうはもう保健所のしごとは終わりました。ワンワンセンターの係のひとも、あしたでないとも来ません。お宅でミルクでも飲ませて、ひとばんとめてやってください」

保健所のおじさんは、ねむそうな声でいきました。そこでおとうさんが、となり町の動物園へ電話をかけました。ちょうどそのころ動物園では、アフリカから送

られてくるはずのライオンがまだ着かないので、大さわざしているさい中でした。
「もしもし。えっ、かんづめからライオン？ すぐ行きます。逃がさないように見はつていてください」
動物園のおじさんの「みつかったぞー」と、どなる声が受話器を通して聞こえてきました。

しばらくすると、動物園のオリをつんだ自動車かやってきました。ミルクを飲んで、たけちゃんといっしょにベッドでんでいたライオンの子は、動物園のおじさんたちに連れられて行ってしまいました。

これは、たけちゃんのおじさんの大失敗が原因でした。空港で荷物の検査を受けるとき、あわてもののおじさんが、おとなりの人のかんづめをまちがえて持ってきたのです。

その人は、アフリカから日本の動物園へ動物のかんづめを運んできた人だったのです。ちかごろ、動物をかんづめにし

て運ぶ方法が発明され、その最初のころみに、たけちゃんのライオンが運ばれてきたということでした。

鈴木愛子さん

市内岩園町にお住まいの、童話の勉強をなさっているおかあさんです。みなさんへの夏休みのプレゼントに書いていただきました。